共生社会推進タウンミーティング2019　概要

◇場所・日時
〈若狭地区〉:8/24(土)サン・サンホーム 2階研修室
〈二州地区〉:8/25(日)あいあいプラザ　ふれあいホール
〈丹南地区〉:8/31(土)サンドーム福井　103・104研修室
〈福井地区〉:9/7(土)福井県社会福祉センター 第1・2研修室
〈奥越地区〉:9/8(日)多田記念大野有終会館306会議室
参加者総数:188名

≪主な意見≫

〔若狭地区〕
□手話の普及に行政が力をいれてほしい。
□障がい者スポーツの強化練習や大会をもっと嶺南地域でやってほしい。
□障がい者が休日に体を動かせる場がほしい。
□障がい者が６５歳になったら介護保険、障がい福祉サービスどちらを選ぶか本人が決めるようにするべき。
□災害が増えていて、障がい者は避難所に行っても生活できるか不安である。どんな災害があっても安心して地域で生活できるような体制を整えてほしい。
□障がい者専用住宅が各地にあるといい。

〔敦賀地区〕
□車いすの人が乗り降りしやすい屋根付きの駐車場を整備してほしい。
□ユニバーサルタクシーなどの便利な交通手段を増やしてほしい。
□公的機関だけでなく、店員や一般県民も手話ができる世の中になるといい。
□視覚障がい者の同行援護に通勤を使えるようにしてほしい。雨風や雪が強い日に、白杖をついて傘をさすのは不便を感じる。
□障がい者手帳をカード化してほしい。カードならケースに入れてすぐに見せることができ時間短縮になる。
□医療的ケア児を看病する親に対する支援をお願いしたい。施設や学校で吸痰できる体制を整えてほしい。
□言語障がい者は電話ができないので別の方法でタクシーを呼べるといい。
□共生社会の広報活動をお願いしたい。障がいのある人とない人との交流を増やすことで、お互いの理解が進む。

〔丹南地区〕

□障がい者が地域で生きる選択肢がまだまだ足りない。当たり前に公共交通機関に乗れる、地元の学校に入れる、皆と同じように住み慣れた街で当たり前のように暮らせる社会になってほしい。

□親が高齢化すると障がいのある子の面倒を今後がみれるのか不安である。グループホームの数を増やしてほしい。

□病院やパーキングエリア、イベントなどにもっと情報保障をしてほしい。

□幼少期から障がいの有無に関わらず共に過ごすことが大事。障がいのある子ども、ない子ども双方がお互いを理解し共に成長につながる。

□施設から出られない人の声を聞く場を設けてほしい。

□障がい者が就職しても、トラブルがあって辞めてしまうケースがある。周りの社員の障がいに対する理解が必要。

□障がいのある子どもたちが活動の場を広げられるように支援してほしい。

〔福井地区〕

□障がい者が一生懸命働いて税金を払う側、社会を支える側になる、障がい者が希望や生きがいを持って社会に貢献するような世の中になってほしい。

□行政職員が合理的配慮を理解していない。過重な負担になる場合の説明をはっきりしてほしい。

□障がいのない人に対して障がいについての理解を進めてほしい。

□市町の福祉部局でも時間外手続きをできるようにしてほしい。

□障がい者が、危険性や、責任がとれないという理由で、様々なサービスを断られるケースが多い。前向きな話し合いができるよう民間事業者に伝えてほしい。

□障がいのあるなしに関わらず小さい時から一緒に教育を受けることがとても大事。別々に教育を受けているから、大人になった時に偏見や差別が生じる。

□公共交通機関をもっと平等に使えるようにしてほしい。

〔奥越地区〕

□保育園で医療的ケア児を看れる体制を整えてほしい。

□障がい者を雇用したいが、特性が分からないから躊躇している。経営者に対する情報提供をしてほしい。

□商業施設に備え付けてある車いすの配置場所が遠かったり、メンテナンスがされていないところがある。

□奥越地区に障がい者がスポーツや芸術を楽しめる場所がほしい。

□地域の身近な場所でひきこもりの相談ができる体制を整えてほしい。